

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 淀川区

学 校 名 西中島小学校

学校長名 田原口 昭貞

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西中島小学校では、第6学年 5名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科については「書くこと」の領域において全国平均を11.6ポイント以上上回っていた。一方で「話すこと・聞くこと」は13.1ポイント、「読むこと」は24ポイント全国平均よりも下回っていた。算数科については、全領域においては全国平均を上回っていた。

無回答率は、国語科・算数科ともに全国平均よりも高く、特に国語科に関しては8.2ポイントも高かった。

児童質問紙においては自己肯定感、将来の目標を持っている児童が多く、いじめを許さない意識も100%と高い。一方で家庭学習の時間が30分以上の割合は全国平均を下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕問題ごとに見てみると、「書くこと」の正答が高く、国語科の校内研究で、読み取ったことをもとに自分の考えを書く活動を進めた成果が表れているといえる。またスクールアドバイザーからのアドバイスをもとに授業改善に取り組んできたことや、学力向上サポーターを積極的に配置して、きめ細やかな指導を続けたことも成果となった。一方で、時間が足りなくての無答率も高く、いち早く問題を捉えることや、心情を読み取ることに課題が見られた。

〔算数〕小数のわり算、直方体の見取り図や円グラフの読み取りなど、どの領域も正答率が高く、基礎基本の定着がみてとれる。昨年度から取り組んでいる校内研究や、少人数での学習が成果として表れている。一方で国語科もそうであるが、速く確実に回答を導き出すことを意識する必要がある。

質問調査より

自己肯定感や将来の目標を持つことができている児童が多く、教職員やサポーターが普段から子どもたちとコミュニケーションをとりながら教育活動を進めていくことができていることや、家庭の協力があることがうかがえる。また、「大阪市いじめ対策基本方針」をもとに、いじめを許さないとする様々な取り組みの結果、いじめを許さないとする児童の割合は100%となった。一方で、話し合い活動、家庭学習に課題が見られた。活動の工夫や充実を図っていかなければならない。

今後の取組(アクションプラン)

国語科

- ・グラフや図表・文を読み取って、大切なことや必要なことをまとめていく活動を継続していく。
- ・教育活動全体を通して読解力を高める言語活動を進める。
- ・漢字検定等を活用し、語句の基礎基本の定着につなげる。

算数科

- ・校内研究の充実や、スクールアドバイザーからのアドバイスを受け、授業改善を進める。